

**平成30年度
第1回藤島地域振興懇談会
会議録(概要)**

期 日：平成30年5月31日(木)

場 所：鶴岡市藤島庁舎

202・203会議室

第1回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 平成30年5月31日(木) 午前10時～12時10分
- 会 場 鶴岡市藤島庁舎2階202・203号会議室
- 出席委員（五十音順） 10名
石川均、井上佳奈子、上野隆一、佐藤二美、菅原きよ、
高山千代子、成澤正喜、半澤正昭、本間亮、前田恵
- 欠席委員 5名 阿部啓郎、石塚健、佐藤耕喜、田中壽一、富樫達喜
- オブザーバー 県立庄内農業高等学校校長 青柳晴雄
- 市側出席職員
〈藤島庁舎〉 支所長 武田壮一、総務企画課長 菅原司、市民福祉課長 伊原千佳子
産業建設課長兼エコタウン室長 小林正雄、
農業委員会参事兼事務局長 三浦市樹
総務企画課課長補佐 叶野仁、総務企画課コミュニティ防災主査 齋藤隆
総務課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優、総務企画課専門員 叶野進
産業建設課エコタウン室推進専門員 高橋智也
〈本所〉 企画部地域振興課地域振興専門員 本間育子
- 傍聴者 加藤鉦一
- 次 第
 - 1 開 会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 あいさつ
 - 4 説 明
 - (1) 平成30年度藤島地域主要事業について
 - (2) 第2次鶴岡市総合計画・藤島地域振興計画・地域まちづくり未来事業計画の策定概要について
 - (3) 藤島地域振興計画（後期計画）進捗状況について
 - 5 協 議
 - (1) 藤島地域振興計画策定について（これから10年のまちづくりについて）
 - (2) その他
 - 6 閉 会

【会議概要】

1 開 会

2 委嘱状交付

3 あいさつ

4 説 明

- (1) 平成30年度藤島地域主要事業について
- (2) 第2次鶴岡市総合計画・藤島地域振興計画・地域まちづくり未来事業計画の策定概要について
- (3) 藤島地域振興計画（後期計画）進捗状況について

5 協 議

- (1) 藤島地域振興計画策定について（これから10年のまちづくりについて）
- (2) その他

6 閉 会

3. 上野隆一 会長挨拶

皆さん、おはようございます。懇談会、今年第1回目です。実は去年は1回きりだったそうです。1回きりですから、何もこの懇談会としてのまとめというものにはできていなかったのではないかと思います。

今度のトップの方は合併した旧町村を充実させましょう、その元気を掘り起こしましょうというような意向で市政に臨まれているようです。その一番典型的な事業が、地域未来づくり基金ですね、地域に対していろいろと活性化のための検討及び課題の抽出と解決方策について提案をいただきたいという趣旨のようです。その課題解決のための課題の抽出あるいは方策をつくる機関をこの地域懇談会に委ねようということで、市庁舎の説明でも今年は大体4回くらいこの地域懇談会を開催予定だということですので、まずこの懇談会自体にえらく力が入っているということが言えます。私が思うには1回のものが4回になったからと言って、この場だけでものが解決できるわけではないと考えておまして、50億円をどこにどういうふうにして割り当てるかというのはまだ決まっていないようです。そういう意味からしても藤島として特色のある方策を作って、且つそれを実践できるような場に持っていく、これがこの懇談会の多分一番の課題になっているのではないかと思います。ただその4回の懇談会の開催だけではなく、藤島というのは、私が思うに農業特に稲作が今、大きな曲がり角に、大きな変化の時期を迎えておまして、それをどういうふうに向性をつけていくかということが、多分大きな課題だろうというように考えております。皆さんのお手元に農業の就業人口とその人口ピラミッドを私の方から事務局の方に頼んで皆さんに配布してもらいました。これを見ただけでもとにかく大変なんだということが一目瞭然だと思えます。したがって田んぼをいかに守っていけるのか、米を何年作っていけるのだろうかという状況に今いるわけで

すので、私は、藤島はその部分にスポットを当てて対策を考えるというような会にしたらと思っております。今年1年は懇談会の見識をあるいは実効性を問われるというか、非常に大切な1年になると思っておりますので、私も気を引き締めて向かっていきますので皆様方からもよろしく1年間ご協力いただければと思っております。挨拶といたします。どうもありがとうございました。

4. 説 明・協 議

(1) 平成30年度藤島地域主要事業について

- － 資料1により説明
- － ①総務企画課長 ②市民福祉課長
- ③産業建設課長 ④農業員会参事（兼）事務局長

(2) 第2次鶴岡市総合計画・藤島地域振興計画・地域まちづくり未来事業計画の策定概要について

- － 資料2により説明
- － 総務企画課 地域まちづくり企画調整主査

会長 約1時間ざっと振興計画、総合計画、地域まちづくり未来事業計画の概要についてのお話をいただきました。私もそうですが、多分皆さんもいろんな経過があって何をどう考えれば良いか、考えれば考えるほど理解に苦しむのではないかと思いますので、いっそ今聞いた話はさらっと概要だけ聞いておいて、自分は何をしたいのかどこの地域の一番要の部分なのかという話をしてもらった方が良いのかなと思います。ただ、その前にせっかくこの地域まちづくり未来事業検討会議にAさんとBさんが出ているので今年の2月に開いた会議でこの地域懇談会が一番の50億円を資金とする事業のベースになる組織だという話のようですので、具体的な話をしていただけませんか。

A委員 委嘱はされたわけですがまだ2月に1回目具体的な話はまだないわけで、地域懇談会が地域のメインとして提言していくということを踏まえてやっていくとのこと。まちづくり未来事業については、合併して12年にもなりますが旧町村、特に藤島においては、合併してもあまり合併効果がないし、意見が届かないという声が多く、新しい市長の中でこういう地域振興策が出たというのは特に藤島では期待をしているということを述べたところ。それから均衡ある施策、鶴岡市の均衡ある発展を私たちが願っている、何も地域だけ、藤島だけが良くなるということではないわけで、この未来事業については鶴岡市全体が活性化していくべきではないのかなと述べたところ。今、30年度の事業計画が5千万近くあるわけですが、各地域そうですが、修理修繕が主です。これは合併12年間でやっていけば、今更やらないでもよかった、そういう事業を現在、計画されているということで、それはそれで良しとして、これから31年度に向かって3年間の計画を立てていくわけですが、この地域懇談会とか、みんなの意見を吸い上げるような体制を作って藤島の意見を出していかなければと思っております。

B 委員 まだ1回しか出ていないですし、事業の説明にすごく時間がかかってあまり意見交換をする時間がなかったのかなと思ったのですが、Aさんが言ってくれたこととこの地域懇談会でいろいろな意見を盛り込んでいくというのがすごく大事な事なのだなということでしたのでよろしくお願いします。

会長 確かにここで話をすることは大事なのでしょうが、さて何をどういうふうにしようかということはすごく難しい話で、Aさんが言われたように、今1時間くらい事務局の方から説明していただきましたがこれらのことは今までやってきた事業内容であってこれからのものを示唆するものであるとは私は思います。今までの10年間と今後の10年間が全くコロッと変わるというようなことはありませんから、ベースになっているといった方がよろしいでしょうか、だから基本方針が農業関連の地域振興ですよということと、もう一つは藤の里づくりを推進していく、この2本は大体今後ともやっていかなければいけないだろうとは思いますが。その中で、より、例えばAさんが言う合併で藤島はちょっと割を食ってきたのではないかと、要は不満な点があるわけですからその辺から、現状に対する不満あるいは批判でも良いと思います。そこから次の手立てを作っていく。今回4回あるわけですから、1回目はすぐにその方向性を探さなくても良いけれども何か話が出ればそれをとっかかりにしながら次の展望が見えてくると思いますから、そういう方策というか会の進め方をもっていきたいと思います。

C 委員 今、地域まちづくり未来事業ということが話題になっていますのでその確認と質問の両方を含めてお話を伺いたいと思います。この地域まちづくり未来事業、31年からということですがすでに30年度の主要事業として頭出ししているわけですが事業の細かいところをみると、会長からもあったように既存の事業に冠をつけたのか単に今年度は未来事業としてこの枠の中に入れたということなのか、30年度予算の事業に係らず31年度から新規事業あるいはその地域活性化事業を考えてほしいという意味なのかという確認が一つあります。もう一点が財源の問題です。このまちづくり未来事業に対して今年度2億1千万ほど全地域で計上されている、多分藤島と同じような既存事業に冠をつけたようなイメージですが、市の予算に関する広報を見ますと3億円の基金造成をしているということなのですが、これとこの2億とは別なのかそれともその3億の中に含まれているのか、この予算の説明を見ても、先ほどの説明の中でも総額50億円規模の基金を目指すと言いながら事業の中には起債事業も含めてということで、基金と個別事業、具体的事業併せて50億なのかちょっとその辺がわかりにくい説明になっている。今の金利水準からすると3億や4億の基金運用益で事業を展開できるとはとても思えない。50億になっても、基金の事業は賄えない。そうすると基金とは別個にこの未来事業を展開するのか。その辺が財源と事業の在り方、今後の展開の方向性について、お聞かせいただければと思います。

総務企画課長 この基金の制度設計かと思いますが、この資料2の2ページのところで最初に50億の造成イメージということであり、これにつきましては基本的に合併時に県から補助を受けたまちづくり基金だったと思うのですが、それが3億創設しておりました。それが地域の振興に資する、この地域まちづくり未来基金と目的を等しくするというので、その3億円をこの年度当初から名称を変えてまちづくり未来基金として3億円の原資から始まっているということでございます。そのうち2億1千万強を今回構築の各旧町村に財源を配布する形になっております。その基金を今後、毎年の決算剰余金、これから先はちょっといくらになるかはわかりませんが近年かなり剰余金が出ていたということもあり、毎年の状況を見て積み増しをしていく。例えば建設事業になりますと財源は地方債とか合併特例債も若干延長されるとかということもありますので、そういった充当財源は後年度の償還で負担になるということですのでそれらも含めて併せて50億という規模で考えているということでもございました。今年度4千9百万円で一部活動センターの整備費に藤島地域5百万円の起債の財源が入ってございます。純粋に全部が基金ではないというような状況もございます。今年度につきましては、10月23日から新市長となったわけですが、その時点では、これは市の内部のことで恐縮ですが、すでに各担当から来年度予算の頭出しというのが待っているわけですし、地域の意見をお聞きしながらという暇もなく今年度予算につきましては各庁舎、市の方で検討させていただいたものです。ただ、本当に今までなかなか措置されなかったようなところも実際今回この事業で予算計上しているということは現実的にございますので、ご理解いただければと思います。

C委員 私も長くやってきたのでわかるのですが、なんとなく手品みたいなもので財源不足をこっちから持ってきてこっちに充当したというような印象です。今、課長からお話しがございましたように、すでに新年度の予算要求を終えた段階での市長就任ということで30年度についてはやむを得ないのかなとは思いますが、やはりきちっとしたものという考え方をすれば、やはり基金は基金として造成を目指すべきだし、それとは別個に金額は小さくてもそれぞれの独実性を持った予算、今後のスケジュールの中では31年度の予算要求時に合わせてそれぞれの地域で一定の方向性を求められているわけですが、そうすれば金額の多寡ではなくていかに独実性を発揮できるかという知恵の出し合いがポイントかなと思うわけです。ですから結果として起債を充当する事業が出てこようがそれは結果であって50億をその起債も含めてあるいはその事業も含めて50億という大きい目標はちょっと違うのかなという感じはします。地域づくりを地域の特性を生かしたものということであれば、何度も言うて恐縮ですが、積み立てと積み立てを取り崩しながら既存事業に振り向けるというようなことはちょっと考えものなのかなと思って受け止めました。

他には一つ、事業の中で、民生委員の絡みの中では、実は今年から新規事業として免許証を返納した人にバスの定期券1万円分やタクシー利用1万円とかいろんな形で補助制度が出ました。大変有効な仕組みとは思いますが、実は4月の藤島の民生委員の定例会でその資料を渡して話をしたところ、「バス路線のない所は何のメリットもないよ」という話

が出ました。藤島では確かに清川線があるわけですが1日3往復、しかも休日・年末年始は休み、ですね。そうすると長沼・八栄島地区ではバスを利用するためにはそこに出なければいけない。そんなことで、バス路線がない所、あるいはバス路線があっても使い勝手が悪い所についての支援の在り方について検討してもらえるように要望して欲しいという意見がございました。それで次の理事会で「そんな意見が出たけれども皆さんのところではどうでしたか」という話をしたところ、きちんとバス路線のある、特に鶴岡市街地の委員が一番恩恵があるわけなのであまり切実感がないわけです。それから昔から全然バスが通っていない所も問題意識が全然ない。藤島のように公共交通があってもちょっと半端的な所、そういう所が一番問題意識を持っている感じがします。やはり今後の課題の中で地域交通の在り方についてもう少し考えて欲しい。タクシー利用があるではないかということなのですが、バスの方は75%補助でかなり高額な補助率です。1万円に対して2千5百円だけが自己負担です。タクシーは、タクシー協会が1割負担です。タクシーを利用するメンバーになって利用者登録すると1割しか、それもタクシー協会の、そこにどんなお金が流れているかわかりませんが、9割が利用者負担、そこにかかなりの格差があるわけです。バスの庄内交通にはその他に地域交通として赤字路線に対しても補助制度がまだ確か存続していると思います。ですからいろんな意味でそこには2重の公費が入っているわけです。だからその利用できない所から見ればちょっと不公平感もかなり大きく感じるのです。これからの議論の中でそこについてまた改めてお話しさせていただく機会があろうかと思いますが地域交通についての課題を持っている、考えているということをお伝えさせていただききたいと思います。

会長 交通問題と言えば良いか高齢者の利便性の問題ですよね。これは非常に今後の重要な課題だと思いますので、これはやっぱり1つの柱になるかはわかりませんが、課題だというふうには思った方が良くと思います。

B委員 日頃、子ども達と関わっていて考えていたことなのですが、今日の資料にもあったように子ども達がすごく減っているというのはすごく問題だと思います。今日の資料で渡前に産まれたのが2人というのがありました。年齢別集計です、これはもう他にない数字だなという、小学校の人数が、今うちの子どもの学年、7歳から8歳というところでは11人なのですが、こういう現実を毎日実感している中で、少しでも藤島の地域の方に住んでほしいということです。子育て世代とかこれから生まれる本当に若い世代に、新築というか家を建てて住むパターン、まあアパートというよりもやっぱり自分たちで建てるという方、それがもう三川橋の一步そっちに入っちゃって五小になっちゃうという状況をすごく身近で何組も見ている、藤島地域だった人が出るということも多いですし、逆に他地域から入るとことはまずほとんどないというのがこの現状なのかなと。ちょっと他の細かい事はわからないのですが、噂で三川とか庄内町でのいろんな事業の中で、三川に住むときのいろいろな助成金や補助制度があるとかないとか、そうすると藤島は近いのに一步三

川になってしまって三川は子どもは減ってないとか聞くとなんか悔しいなと思います。小学校があることでその地域が、いろんな地域愛がある人たちが、手伝ってくれたりすることで繋がっているのですが、例えば渡前小学校が2人とかになっていますが、これからどうなるかとなった時に学校があるのとないのとではすごく違うんじゃないかなと、それは日々考えています。昔、藤島の教育がすごかったとか、ありませんでしたか。私もあまり詳しくないのですが、教育の町って山形の中でも結構有名だった時代があったとかで教育に力を入れていたということで、「そうだよ」と他から言われたりするのです。若い世代のお母さんにとっては教育の良い所、というのは考えるのではないかなと思うのです。ただ、実際ここに家を建てるとなると勇気がいるのでちょっとしたことではなかなか住まないのかなと思います。やっぱり本当に充実してすごく目立つような、教育が良いとか例えば、食、給食とかが良いというのもそれはいろんな取り組みの中で有名ですけども、その辺を絡めて地域力とか教育とか食べ物、食育とかがすごく良いんだよということで一歩こっちに入ってもらいたいなと。とにかく人口を増やさないことにはいろんなことが大変になるのではないかなと思っています。

会長 たしかに巷でも三川町では家を建てるのに補助金を出すと子どもが産まれた場合には出産費用を出すとあります。この辺は役所の方でつかんでいると思いますのでちょっと三川や庄内町の例と鶴岡の場合とを少し比較してお話していただけませんか。

B 委員 若い世代ってやっぱりあまりお金がたまっていなかったりするとちょっとしたそういうこともけっこう重要なポイントになってくるのかなと思います。

総務企画課長 三川町それから庄内町と特に土地が隣接しているわけで、子育て支援を身近に比較される方が多いわけですが、例えば三川でありますと住宅リフォーム支援ということで子育て世帯などを対象にすると住宅取得にかかる、家を建てる場合から中古住宅の取得等移住定住するためのそういった施策がありますし、出産祝い金がございます。出産育児金は一人につき10万円、第3子以降は毎年10万円ずつを5年で50万とか、期間制限はあるようですが。庄内町だとひまわりっ子誕生祝金ということで第3子10万円、第4子20万円、5子以降は30万円とか、ちょっとこれは情報が古いので今はどうかはわかりませんが。鶴岡市にはない支援として挙げております。

地域振興課地域振興専門員 住宅リフォーム支援補助金というのが30年度も鶴岡市にはあります。これが婚姻・出産・3世代同居・子育て世帯、そういった該当する条件に応じて上乗せされるという制度があるようです。ただ、実際に、地域振興課移住定住等も担当しておりますがその三川町や庄内町の施策と比べて、直接お金がもらえるというわかりやすさは少ないのかなという自覚は持っております。これを言ってしまうと語弊がありますが、我々が行っている移住政策がばらまきとなってしまうもので一時的に来てもらうことで本

当に鶴岡や地域にちゃんと住んでくれる人がどれだけ期待できるのかという思いがあります。ただ、後は人口規模といいますか、そういった問題ももちろんあるかと思いますが、どれだけその施策に三川町さん、庄内町さんが予算を割いているかというのをきちんとデータとして取っておりません。先ほど B 委員さんがおっしゃったような、その地域にとってのお金ではない、教育の町であったり給食のこだわり、食、地産地消へのこだわりであったりといったところをもっとこうキラキラとさせる施策に力を入れられれば一番良いのだと思いますが。そこが皆さん、足りないと思っていらっしゃるところがあるのかもしれない。

会長 やっぱり今、藤島は他から負けている、基本的に。今まで羽黒や櫛引からも負けていなかったものがだんだん負けているというのは、やっぱり魅力が低下しているわけです。三川や庄内町はかなりお金を使って、今言われているようにわかりやすくお金を使って人を引き入れている。これがどうも今の藤島ではなくなっている。何かしらのわかりやすい魅力を作るといえるのは大切だと思います。

A 委員 話を聞いている中で、最初公共交通のことを C さんが出したわけですが、私も鶴岡市の公共交通の委員です。この間の会議で地域公共交通のない八采島・長沼については、アンケートは取ったけれどもそれ以後何の音沙汰もないしどういう方向で進めるのかもわからないし何の話もないということで、どのように考えているのかと質問させていただきました。

それから藤島の特徴ある方向性としては農業基本とふじの里だと思いますが、ふじの里づくりについては公園もできてこれから 3, 4 年もすれば藤の花も立派に咲きますので。今年は観光客も増えているようですし、やっぱり一つのメインとして推していかなければいけないと思っております。一方、農業関連の環境にやさしい町づくりについてはやっぱり農業の町ということで藤島は特徴があるわけですが、ではそれをどうしていけば良いのか、やり方がわからないというか、そういう状況だと思うのです。ただ、有機農業と言っても有機農業をしている人が本当にどのくらいいるのか、それから農業と地域の農業以外の人とのつながりが何もない。だから農業でない人は農業の町と言われてもあまり関心がないのではないかと。農業とふじの里と一般の住民も関心あるようなつながりがあるような、丸ごと藤島みたいな、そういうつながりを持たないと農業の町と言っても何をすれば良いのかなかかわからない。販売についても販売拡大と言ってもどうすれば良いのかということがわからないというか、そういう状況なのでこれから本当に農業振興、農業の町と言われるようになるためには、みんなで考えて藤島の人が農業の町とみんなが認めるような、そういうことを考えていかなければならないのではないかと。それからこれからの藤島として特徴あるものにどうすれば良いか、やはり若い人が住みやすいような街づくりを第一番に考えるべきではないか。酒席での話を聞いてみると、ランドセルの無償化などもなぜできないのかと、給付型はダメだということだが、それが藤島の特徴として、そうでなけれ

ば鶴岡市全体に働きかけてそういうことも進めて、鶴岡市も子育て対策はいろいろやっているけれど、そういうことも特徴あることとして藤島から出して良いのではないかという人が大半です。

B 委員 ランドセルは、藤島の流れを汲んで東渡前町内会ではプレゼントしています。というのは子どもが2人や多くても3人、いない年などもあるのでそれぐらいは何とでもなるという感じで。でも何かもらえるということで子ども達も喜んでいました。それから申し訳ないのですが農業の話でもう一つ、うちも農業にすごく関わっていて、なのであえて農業、農業と言いたくないなと思うのですが、日々やっている事というのが、私は販売担当ですが、とにかく必死に良い品質のものを作って、とにかく必死に売って生き残りを毎日かけているわけなのです。そんな中で最近思うのは、つや姫がすごく人気なのです。関東、関西もそうなのですが、ダントツで、コシヒカリや青森の青天の霹靂とかいろんな品種がいっぱい出ている中でつや姫が1番なのです。それも販売していて実感するし、本当にこの米があるから販売できるなというぐらいに魅力あるコメが1つあるということで持続して生産でき、販売できるし経営が成り立っている状況です。それが生まれた町ということで、いろんな人と話をしている中で1つキーワードを教えてもらったのですが、「ここはつや姫特区だね」と言われたのです。「つや姫特区という何かそういうことができるんじゃないの」と、具体的な事ではないのですが言葉として「つや姫ロード」とか「つや姫特区」とか、結局作る側の農業からの発信ももちろん必要ですが、おいしいお米を食べたいとか、つや姫という良いイメージがすごく全国に広まっているので来てみたいとかそういうのがあると思うのです。そこをうまく絡めてPRして、まずは農業の町ということで考えるのであれば使えるのかなというのが一つあります。もう一つそこにやり方というのはコーディネートとかプロの世界があると思うのです。やはり、いくら素人が考えても全体のまとめ方というのは、コーディネーターとか事業を仕切るのが仕事の人、その経費をどう考えるかですが、案外そこはもったいないように思うかもしれませんしその人がうまくいくかもわからないのですが、誰かそういう人がいれば私たちが思うよりももっとしっかりしたイメージの事業というか作り上げていくことができるのかなというのがあります。

D 委員 なかなか鶴岡市と全体で考えるとまたこれは難しくて資料を見てちょっと気づいた点だけ。先ほどから出ている藤島としての魅力というのはもちろん農業とふじの里づくり、そして今お話しされたように教育とか子育ても必要だなと思ったところです。そのふじの里づくりですが、これは今年のおふじの花まつりを見ても非常にマスコミや新聞等で今までになく取り上げられたのかなと、私の感覚ですが、多分多いだろうなと思ったら本当に多くて人数も千人以上多いということで書いてあって。場所も良かったのかなと思います。今までは隣の屋内運動場だったのですが、地面が土で周りのイスも、あれは当日は多分片づけたのでしょうが、ちょっと今一つと思うところがあって。場所を変えたことで非常に新しい感じになったようで良かったのかなと思っております。それから新しく出来た

歴史公園 Hisu 花の方も3年目ということで年々目に見えて、今年も先ほど話もあったように、藤の花もすこしずつ大きくなって、何か催すというものが少しずつ増えてきて、非常に目に見えて1年1年ずつ積み重ねてきているなという感じがあって。これからもいかにたくさんの人を、特にこの地域の人達を集められるか、そういう所を中心に。地域の人が良いとなれば何かの時にお話もできるし「こういうことをやっているよ」ということで話もできるので。まずは地域の人達が頻繁に来れるというような楽しい企画を続けていってほしいと思います。東田川文化記念館等を含めた事業をするかということも考えながら、関連性があつた方が良いのかなと思って。東田川記念館で何か子ども達の絵の発表会があつたら子ども達を対象にした何かコーナーがあつたり写生会があつたり。そうやってつなげていくという行事の内容を考えていったら良いのではないかなと思っております。

E 委員 私の立場としては消防関係なので防災の機能強化ということで、第2次総合計画の方になりますが、それについてちょっと話をしようかなと思ったのですが、時間の方もありますので次回ということで。私の方も若干取りまとめてお話をしたいと思います。

F 委員 私も歴史公園は注目していて、小学校のころから藤の花公園ができると聞いていてやっとなでできてうれしいかぎり、これからの可能性も楽しみなのですが、先ほどDさんが言ったように観光拠点としてはプチマルシェだったり、イルミネーションも今年からライトアップも増えたところで、この方向性はすごく良いと思うのですがやはり地域の公園としては子ども達から言わせると「歴史公園は楽しくない」と。山とかがあって走ったりするのは楽しいけれどブランコや滑り台の遊具などがなくて多分小学生は楽しくないという話でなかなか行かないのかなと思っているのでその辺を少し今後考えていかなければと思っています。

G 委員 藤島の三大祭、ふじの花まつり・夏まつり・秋まつり、やはり先ほど言ったようにマスコミのちょっとした宣伝ですごく集客力があつます。前よりはお客さんが増えたかなと思っておりますので、その柱は崩さないで他からもお客さんを呼ぶということをここにまた盛り込んでほしいし、資料4の上から4番目の「若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築」、生きがいを持って楽しい、先程来の、若者が住みたい地域でありたい、子ども達が少ない町内会では子ども達の声が聞けないという地域もありますし、そういう若い世代がいなくて今後の発展が望めないし何のためにいろいろなことをしているのかわからなくなる。ぜひ隣の三川町に負けないような、ランドセルの配布などは良いものだったので、子ども達が少なくなれば全市になつても大した予算は使わないのではないかなと。それで鶴岡市に住む人たちがあつるのであればすごく良い宣伝じゃないかなと思いますので良いことの復活ということに臆病にならずにちょっと知恵を絞って、東渡前さんみたいにやっている所もあるでしょうが、そういうことも広めていって欲しいし、そのうえで人口が増えれば最高に良いことだかなと思います。もう一つ

この農業人口の表を見ていてすごく減っているなと思う反面、土地が集約化され離農する方がすごく増えていることも事実だと思います。集落にいても委託したからやめたという人、受託してくれる人がいればそれで離農もできるけれど今後離農したいけれど受託してくれる人がいなくて耕作放棄地が増えてしまうという懸念がすごくあるかなということと、それから空き家、今まで一人でも二人でも頑張ってた人たちが高齢になって子ども達が帰ってこない空き家が増えるのではないかと、そういう心配をすごくしているところですのでこの4番目をぜひ盛り込んでそういう社会の構築をしていただきたいなと思っております。

会長 たしかにこの農業の問題、先ほど A さんから農業の行方が見通せないというお話がありました。私は藤島というのはこの農業の問題を、農協だけではなく、もっとちゃんと追及するべきで、それをこの場で持っていきべきでそれを今後のまちづくりの目玉にしていければと思っております。それも提案していきたいと思っております。

H 委員 子育てについて、ランドセルに関して言えば藤島地域のこりす保育園に通っている子ども達の場合は親が相談して以前のように安く共同購入できるような形を取っているのが現状です。この人口グラフを見て思うのですが、これは農業従事者だけでなく全体の人口がこういう形、ですよ、全体的に。それでやっぱり高齢化に対応することは考えていかなければいけないことですが、これから 10 年先のことを考えようとしているのだから若い人の考えをもっと聞く機会、地域まちづくり未来事業検討会議にメンバーが二人行っているということでこういう会ができて良かったなと思うのですが、それ以前に藤島地域に住んでいる若い人が集まって飲んでしゃべってとそういう機会を作って、自分たちが暮らしていく中で、自分たちはこれからどういう所で住んでいきたいし、どういうふうにしてももらいたいし、では自分たちでできる事はどういうふうなことなんだということを話す機会を作ってそれを積み上げてまちづくりに集積してもらいたいという気がします。だから F さんが PTA 会長をされていますが、どうしても学校での集まりだと子どものこととか生活指導が中心になると思うのですが、そうではなくて藤島町に住んで俺たちはこうしたいとかそういう話もぜひしてもらいたいし支所単位でもそういう 40 代以下の若い人たちがどうしたいとか、ざっくばらんに素直に話し合える機会をぜひ、うまく作ってほしいと思います。

会長 農業はこのような状態で商工会もこのような状態ですから、要は産業の柱が 70 歳代になっているわけです。これから 5 年後 10 年後がどうなるのかと考えた場合、すごく恐ろしい社会が到来する、それに対して何か夢物語みたいなことは言うけれど実際に手立てを打っていけないもどかしさがあると私は思うので。今回のまちづくりのためにそんなに夢物語を言うのではなくて実際この地域をどうしていかなければいけないのだということを地道に考えるような、この懇談会の作業委員会とか専門委員会のようなものを作って

話し合う場があれば良いかなと思います。これは事務局に要請しておきます。

Ⅰ 委員 運動指導の仕事をしていて体育館で1レッスン、60代の女性陣を対象としたレッスンをしてきたのでこのような軽装のまま来てしまい本当に申し訳なく思っております。嫁に来て20年、鶴岡市内南銀座から来ました。子どもを3人育てていまして高校生・中学生・小学生と各種取り揃えております。今日はちょっと堅苦しいなと思ったのですが、PTA活動などでお会いしメンバーもかなりいらっしゃるのでちょっとほっとしているかんじです。子育てもひと段落ついてきたところで、PTAで知り合った人たちや体育館の運動指導で知り合った人たちに声をかけながら、実はひそかにふれあいセンターで「ちょっとヨガしようよ」などと声をかければ20人くらい集まってくるような、そういう楽しみを今は持ちながら藤島でお嫁さんを楽しく不満なくやっております。鶴岡にも20分くらいで通勤できるし酒田も今は道路が良くなっているので20分くらいで通うことができます。すごく住みやすいなと思っているこの気持ちを40代以下の若い人たちにも伝えていく機会があったら良いなとも思います。役場のすぐ近くに住んでおります。歴史公園の完成をすごくうれしくも思っていますし、来年か再来年あたり公園を使わせていただいてヨガのイベントができれば良いな、借りやすいシステムを作っていただけたら良いなと思います。お米の話もありました。運動指導の仕事をしているということで、体のこと健康のことをしている人から食のことを配信してもらうことがすごくありがたいと農家の方から言われたこともあります。歴史公園でヨガをしてそこでつや姫を振る舞うというようなタイアップもできたら良いかなと。的外れかもしれませんが、短い時間でそのようなことを思い描きました。何かまた機会がありましたらチャンスをください。よろしく申し上げます。

庄内農業高等学校校長 ありがとうございます。大変勉強になりました。昨年度から私はおりまして、まず一つが今年地域活性化で考えるとどうしてもイベント。イベントに関して言えばふじの花まつり、すばらしいまつりに、また少しずつ良くなっていると思えますし、本校で行わせていただいております高齢者と高校生とで花を作ったりする事業に関しましても高校生にとっては大変な学びになっておりまして大変ありがたいなと思っております。その中でまた新しい展開ということで先程来ありましたが、鶴岡市全体で動いて地域ごとにとということになります。大変うれしく思ったのが、藤島が教育の町であるということ。この教育の町というところを何かに活かしていけないかと、先程ございましたが、つや姫ロード、つや姫特区と言いましょか、これは非常に藤島が持っている強みであると思えます。この辺をうまく絡めながら人づくりと言いましょか子ども達を、幼稚園、小学校、中学校、我々高校生も地域を、自信を持って住んでいけるような何かがないものかなと。これから何回かあるということですのでこの中でこういうご意見を出していただきながらこのつや姫を中心としたところで何かできないものかなと考えておりました。先ほど最後にありましたが、実は私は本校でこの職に就く前に県庁の教育委員会の生涯学習の方におりまして、そこで一つやっていた事業が地域の若者の活動を支援するというところ

ろがありました。県庁の中には若者を支援するのは若者支援課と教育委員会の2つあるのですが、教育委員会の方ではそういう若者の学びとかそういうことを考えていくような手助けをしていこうと、それから若者支援課では若者チャレンジといったようなお金を出して何かをやってみないかということがありました。この若者たちを支援していくような活動というのがありまして、実はその流れで今年、本校にお願いされたのですが、この地域の若者団体と高校生をつなぐような事業ができないかということで先日教育事務所の方で私の方に来て依頼させていただきというお話になっております。そういう形で県の施設ではあるのですが地域にあるものですから、ぜひ活用していただきながら。なかなか学校のシステムがあるので急には出来ないところもあるのですが、できることから活用していただきながら高校生も学ばせていただけたらと思っております。先ほどあったつや姫、教育の町というようなところを活かしていけるようなチームになっていけば大変ありがたいと思っております。大変勉強になりました。ありがとうございました。

会長 1回目ですのであまり集約された議論にはなりませんでしたが少なくとも1回目としての課題の抽出という点ではいくつかの課題抽出ができましたので、これをベースとしながら次回以降に臨みたいと思います。

A 委員 今、つや姫の広告塔が建っておりますが、はえぬきの広告塔が老朽化して今は無い状態です。雪若丸が誕生の新品種ということで広告塔を立ててほしいというような意見があるわけです。本当はまちづくりの未来事業の30年度で、普通の広告塔ではなくLEDを使った遊び心を持った広告塔をというようなこともあったわけです。全部市の予算ということではなく自分たちも参加しながら建てていくという方向性もあるわけですが、庁舎としてはどう考えていますか。

産業建設課長 2年前の風によりまして、老朽化も含めまして、はえぬきの広告塔が今は無い状態で支柱だけが建っているわけですが、30年度予算で先程の小規模修繕の中にありますが、支柱の撤去費用と新たに建てるための活動補助のような形で予算は若干ついております。それは地域の皆さんからも手伝っていただきながらつや姫塔が建ったようにそういった形で賛助金等集めながら建設するような形で考えておりますし、今までははえぬきだけの看板でしたが雪若丸も今回本格デビューということでもありますのでそういったことも視野に入れていきたいと思っております。ただ、LEDの話もありましたが金額的にはそこまでの予算がついておりませんので地域の皆さんと相談させていただきながら進めていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

6. 閉 会（菅原総務企画課長）